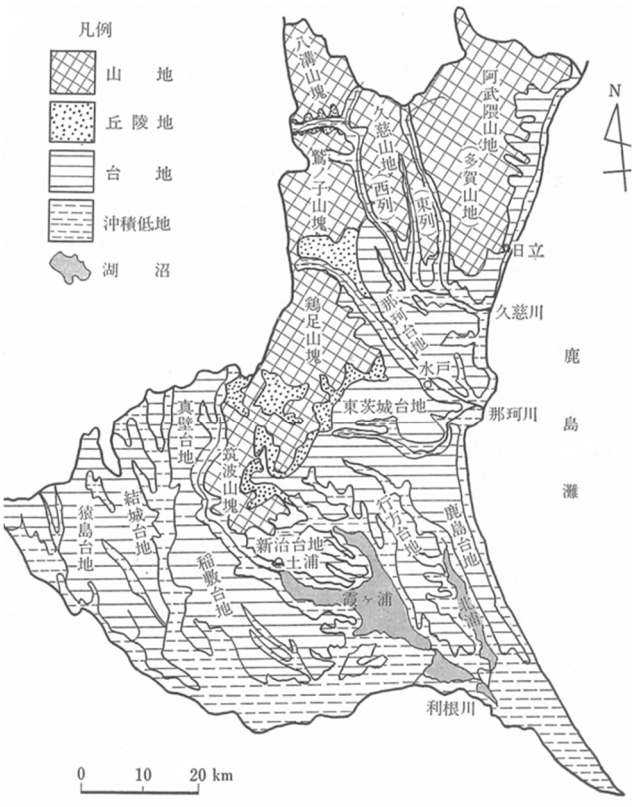
常陸大宮市の地勢と気象



常陸大宮市は、茨城県の県北地域に位置する。北は栃木県(那珂川町)と大子町に、東は常陸太田市に、南は城里町と那珂市に、西は栃木県(那須烏山市、茂木町)に接している。市の東部(常陸太田市との境付近)を南北に久慈川が、市の南部(城里町との境)を那珂川が流れている。久慈川は、茨城県、福島県、栃木県の三県にまたがる八溝山を水源とする一級河川(国管理)で、日立市と東海村の境を経て太平洋に注ぐ。那珂川は、栃木県と福島県の県境に位置する那須岳を水源とする一級河川(国管理)で、ひたちなか市と大洗町の境を経て太平洋に注ぐ。

地形は、市の南東部が那珂台地、南部が丘陵地、北西側の大半は山地で、久慈川を境に久慈山地(阿武隈高地南部)と八溝山地に分断される。更に、八溝山地は那珂川を境に鷲ノ子山塊と鶏足山塊に分断される。久慈山地の主な山としては、市の北東部に明山(標高 457m)や 熊の山(標高 300m)などがある。鷲ノ子山塊の主な山としては、市の北部(大子町との境)に尺丈山(標高 511m)や愛宕山(477m)が、市の北西部(栃木県那珂川町との県境)には鷲子山(標高 463m)などがある。鶏足山塊の主な山としては、市の南部(城里町との境)に津室山(標高 321m)や井殿山(標高 315m)などがある。

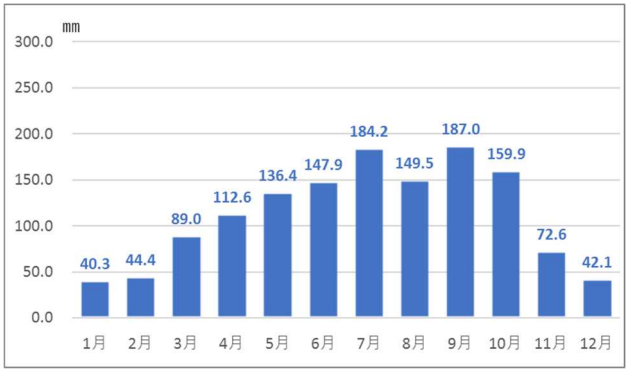


茨城県の地形区分(出典:茨城県 地学のガイド;1977, コロナ社)

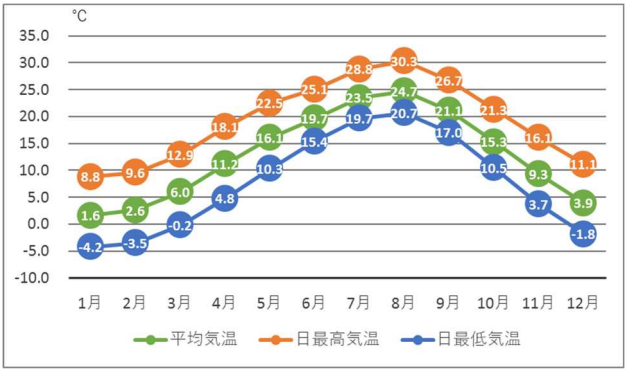
気候は、太平洋側気候で、山岳地域では山岳気候の特徴を併せ持つ。夏季は、太平洋高気圧から吹き出す南よりの風の影響で高温多湿となり雨も降りやすい。冬季は、乾いた北西の季節風が吹き、晴天の日が多く、降雪は少ない。山岳地域では、複雑な地形の影響を受けるため、気候の地域差が著しい。

降水は、冬は少なく、春から秋にかけて梅雨前線や秋雨前線、台風の影響などで徐々に多くなる。年降水量の平年値(常陸大宮)は 1363.7 ㎜である。

気温は、夏に 35° C 以上の猛暑、冬に −10° C 以下となることもあるが、平年の気温(常陸大宮)は、夏季の日最高気温が 30.3℃、冬季の日最低気温が −4.2℃で、年平均気温は 12.9℃である。



常陸大宮の降水(月ごとの平年値) 1991 年~2020 年の統計値



常陸大宮の気温(月ごとの平年値) 1991 年~2020 年の統計値

常陸大宮の平年値・極値はこちらから

https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php?prec_no=40&block_no=1331&year=&month=&day=&view=